

# 2025 年度 CS-Tokyo 能登半島地震ボランティアプログラム報告（第 30 回）

作成：TVAC/CS-Tokyo

■日程：2025 年 5 月 24 日（土）～5 月 25 日（日）

■ボランティア参加者数：10 名

■実施場所および被災者の参加者数

日時	実施場所	被災者の参加者数
5 月 25 日（日）	穴水町宇加川地区（諸橋地区）海岸清掃	14 名
	交流会	24 名

## ■被災者の声（主なもの）

- ・赤帽さん（ボランティア）が来ると聞いて絶対に参加したかった。能登に来てくれてその気持ちが嬉しい。海岸を綺麗にしてくれて本当にありがとう。
- ・昨日は風が強かったから波打ち際のゴミは全部流された。いつもはもっとゴミだらけだよ。海岸のゴミは取っても取ってもまた流れて来る。
- ・7 月に港の修理が終わるからやっと船を出せる。
- ・こんなに多くの人が集まるのはとても久しぶり。地域の人同士もなかなか機会がなくてね。東京の人たちともたくさん話ができて楽しいね。
- ・サザエは潜らなくても捕れる。サザエは蒸してから冷凍して子供達が来た時にみんなで食べる。
- ・震災の影響で迷い込んできたネコがたくさんいるの。ネコ好きな人が世話をしているけど、子猫を産むから野良猫が増えてしまって、もらってくれないかしら。
- ・地震のときは車は役に立たないと思った。道路に段差ができて集落に入れられないし出られない。路肩にはパンクした車がたくさん乗り捨てられててひどい渋滞だった。
- ・震災後は金沢に部屋を借りて住んでいて、地元で用があるときだけ帰ってきている。もうずっと金沢でいいと思っていたけれど、何度も帰るうちにやっぱり地元に戻りたいと思うようになって、つい先月、私は戻ろうと決めたんだ。
- ・親戚が解体業者を名乗った人に通帳を渡しちゃった。少額で済んだからよかったけど、人がいいから付け込まれたのだろうね。
- ・仮設住宅はすごく悪いところはないんだけど、壁の向こうから隣の家のテレビの音などが聞こえる。
- ・自衛隊の方が駆けつけてくれたときはとても心強かった。自衛隊や消防隊がいてくれると安心できた。
- ・飛行機が通ると結構大きな音がして、そのたびに地震では？とドキドキしてしまう。トラックの振動も地震のように感じてしまうことがある。
- ・お米も野菜も採れるし、海で魚を捕ったり塩も作れる。生きていくには十分な環境だけど病院が無い。

## ■ボランティアの所感（主なもの）

- ・前回ボランティアで来たときより家の解体が進んで瓦礫が少なくなったのは良かったです。逆に更地が目立って寂しさを覚えた。お話を伺うと辛かった事や大変な事を抱えながら強く生きていらっしゃるって感じて胸が引き締まった。
- ・海岸清掃に参加して海洋プラスチックの問題を実感した。普段からしっかり意識して減らすようにしたい。地域の若手が 60 歳と伺ってまた清掃作業のお手伝いをしに来たいと思った。
- ・東京と能登という物理的な距離が離れていたとしても、このつながりがその地域で暮らす人々の活力になることもあるのだと感じた。

